

## 第3章 めざすべき将来像と対策の方向性

物流効率化に向けた課題の中には、走行ルート上のボトルネックの解消や荷さばきスペースの確保のように、短期的対策により速やかな解決に向けて取り組んでいくべきものと、道路ネットワークの整備とそれに合わせた物流拠点整備のように、中長期的な視点から対策の方向性を構築していくべきものがある。

中長期的視点からの課題解決も視野に入れて、物流効率化に向けためざすべき将来像を提示し、その実現に向けた今後の物流対策の方向性を示す。

### 1 めざすべき将来像

#### (1) 東京発物流改革の将来像

##### ～ 生産から消費まで一貫して効率的な物流 ～

物流は、全国各地との輸送、港湾や空港を經由した輸出入、物流拠点での保管・加工・仕分、店舗・事務所や家庭等への集配送など、一連の流れにより成り立っている。したがって、いずれかの段階で流れが阻害されても、効率的な物流の実現は困難である。

このため、これらの各段階における様々な課題を解決し、生産から消費まで一貫して効率的な物流をめざすことにより、国際競争力強化、暮らし・環境の向上を実現する。

具体的には、首都圏物流を支える陸・海・空の広域物流ネットワークを形成するとともに、地域の活力を高め快適な暮らしを支える効率的な物流を、まちづくり等と連携して実現していく。さらに、物流面から生活環境・地球環境の改善にもつなげていく。

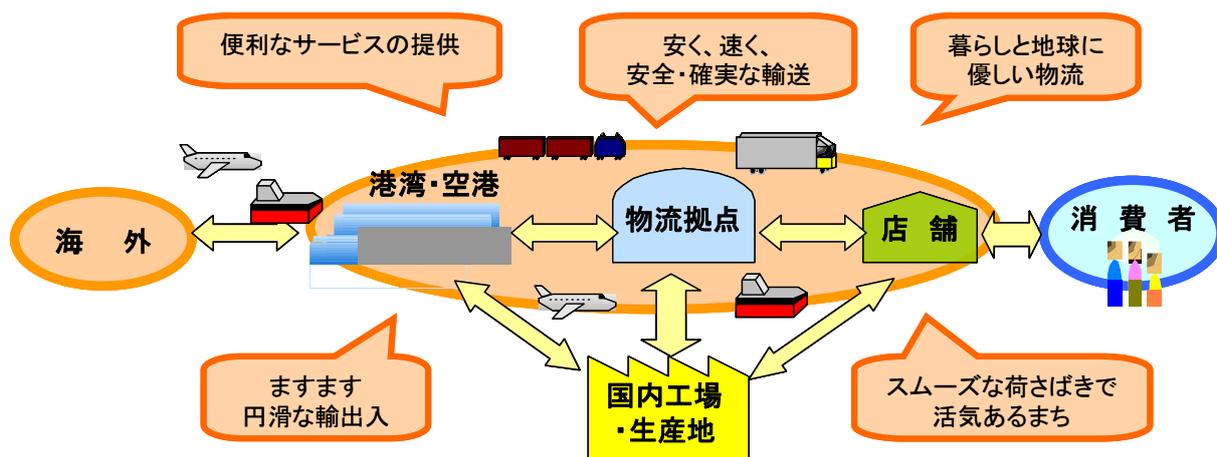


図 生産から消費まで一貫して効率的な物流のイメージ

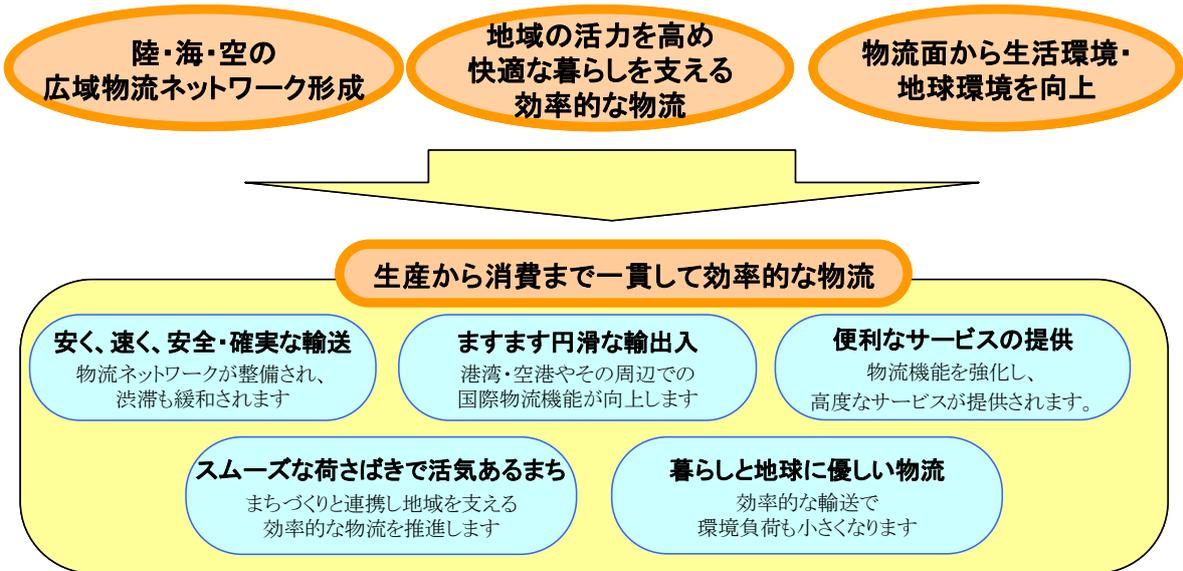
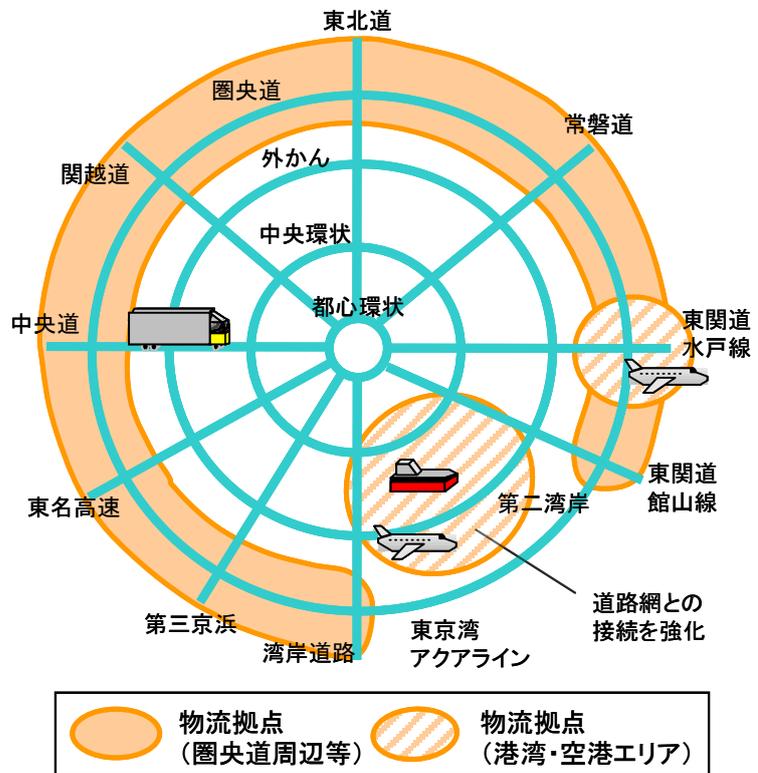


図 生産から消費まで一貫して効率的な物流の実現に向けて

### ① 陸・海・空の広域物流ネットワークの形成

東京及び首都圏では、全国各方面、海外と活発な物流活動が行われ、産業や暮らしを支えている。港湾・空港での国際物流機能を強化するとともに、高速道路を中心とする道路網を構築し、港湾・空港との接続を強化することで、陸・海・空の広域的な輸送網を構築していく。

さらに、港湾エリアや圏央道周辺等において広域的な物流機能を担う物流拠点の立地支援により、広域的な輸送網と物流拠点が有機的に結合した陸・海・空の広域物流ネットワークを形成し、効率的な物流体系の実現をめざす。



## ② 地域の活力を高め、快適な暮らしを支える効率的な物流

多くの物は繁華街などに配送され、私たちの手元に届けられる。とりわけ、東京では繁華街や業務集積地が多く、消費地近傍に立地する物流事業者によるきめ細かいサービスにより、地域での物流が支えられている。

これらの事業者が、流通加工など新たなニーズに対応するなど、既存の物流施設を有効に活用しながら、より高度な物流サービスを提供していくことが重要である。さらに、繁華街等においては、物流事業者や自治体、商店街など地域の様々な関係者が連携して物流に配慮したまちづくりを行っていくことが不可欠である。

これらの観点から、地域の物流を支える事業者における物流機能強化を支援するとともに、まちづくりとの連携を促進し、地域の活力を高め、快適な暮らしを支える効率的な物流をめざしていく。

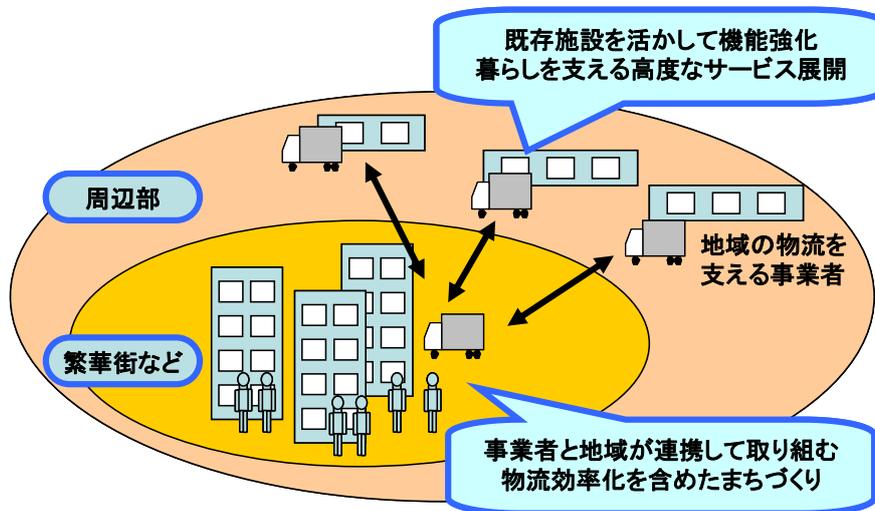


図 地域の活力を高め、快適な暮らしを支える効率的な物流

## ③ 物流面から生活環境・地球環境を向上

陸・海・空の広域物流ネットワーク形成などにより、生産から消費まで一貫して物流の効率化を推進していくことで、貨物車からのSPM、NO<sub>2</sub>、CO<sub>2</sub>等の排出削減など、物流活動に伴う環境負荷を低減し、物流面から生活環境・地球環境を向上させていく。

### (2) 他自治体や国などとの連携

生産から消費まで一貫して効率的な物流を実現していくためには、首都圏を視野に入れた広域的な取組が必要であり、国や自治体などとの連携が不可欠である。

このため、物流効率化に向けた国や東京都市圏交通計画協議会\*の広域的な取組などとも可能な限り整合を図り、国、周辺県市及び都内区市町村などとの連携を強化しながら、本ビジョンの取組を効果的に推進していく。